

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3351
2. 授業担当教員			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育実習 I (保育所) の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。		
8. 学習目標	<p>「保育実習指導 I (保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設の種類及び保育所の機能と保育士の役割を明確にする。</li> <li>2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。</li> <li>3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。</li> <li>4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。</li> <li>5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。</li> <li>6. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学び、説明することができる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習保育園 (施設) 概要の作成</li> <li>・配属施設について調査する</li> <li>・部分実習指導案、教材研究 記録の書き方など</li> <li>・実習むけての自己課題を明確にする。</li> </ul>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 関口はつ江 (編著) 『自分をいかす保育実習ハンドブック』 大学図書出版、2022。  駒井美智子編著『施設実習ガイド』 萌文書林、2020</p> <p>【教材】 「保育実習の手引き」</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができるか。</li> <li>2. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身に付けることができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>個別の授業態度、グループ活動への取り組み、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度 50%</li> <li>2. 各提出物 50%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとって一人の大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもち、実践力を身につけて下さい。さらに実習終了後は、現場での学習を保育理論と統合し、今後履修する科目の学習の糧にしていってほしいと思います。		
13. オフィスアワー	後日インフォメーションします。尚、オフィスアワー以外の時間でも来室は可能ですが、できるだけ事前にメールにて連絡をするようにしてください。 メールアドレス：atsaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 研究室： 13 号館 8 階 984。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	保育実習 I・II・III それぞれの目的と授業概要、実習の流れを理解する。実習におけるマナーとルールについて理解し、実習に向けての基本姿勢の形成を図る。	事前学習	教科書「保育実習ハンドブック」第 1 章 実習とは何か、「実習に関する基本的ルール」及び「留意事項」の箇所を熟読してくる。
		事後学習	保育実習の基本について再度整理する。
第 2 回	実習の目的と内容を再度整理し自らの実習課題を明確にし、個人調書の作成につなげる。	事前学習	『保育実習の手引き』の読み、自己の目標を考える。
		事後学習	基本姿勢を生活の中でも意識し実践する。
第 3 回	実習先について調べ、オリエンテーションへの準備を行う。	事前学習	保育実習の手引き』のなかの実習オリエンテーションへの準備、必要とする持ち物、の箇所を熟読する。
		事後学習	オリエンテーションに向けてすべきことを再度整理する。
第 4 回	保育実習の基礎知識を学び、保育所の一日の流れを把握する。乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事前学習	『保育所保育指針』のなかの年齢別発達の箇所を読み、理解する。
		事後学習	保育所のデイリープログラムのサンプルを読み、保育所生活の一日の流れを把握する。
第 5 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける①時系列の記録	事前学習	教科書及び手引きの「実習日記」の箇所を読み、要点を整理する。
		事後学習	見本にそって自己の記録を添削する。
第 6 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける②1 日のまとめ	事前学習	教科書及び手引きの「実習日記」の箇所を読み、要点を整理する。

		事後学習	見本にそって自己の記録を添削する。
第7回	部分実習指導案の作成の基本を理解する	事前学習	教科書の「指導案」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	課題とする指導案を立案し、模擬保育に備えて準備を行う。
第8回	絵本の読み聞かせ、手遊びの実演 模擬保育①	事前学習	て準備を行う。
		事後学習	模擬保育の準備を行う。
第9回	絵本の読み聞かせ、手遊びの実演 模擬保育②	事前学習	模擬保育の準備を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を通して改善点を明確にする。
第10回	事例を通して年齢ごとの子どもとの関わりにおける配慮点を整理する。	事前学習	教科書を読み年齢別子どもとの関わりでの留意点をまとめる。
		事後学習	『保育実習の手引き』の守秘義務の項目を熟読する。
第11回	実習に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	再度、実習の準備内容を確認しておく。
		事後学習	自己の12日間の実習課題を考える。
第12回	ディスカッションを通して実習目標及び12日間の具体的課題について考える。	事前学習	再度、実習の準備内容を確認しておく。
		事後学習	再度、実習目標及び課題を整理する。
第13回	実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	実習の反省をふまえて、保育実習Ⅰ（施設）に向けて、自己課題を明確にする。
第14回	施設実習の目的及び実際について学ぶ。	事前学習	教科書の施設実習の箇所を熟読しておく。
		事後学習	自分の希望種別の施設概要について調べておく。】
第15回	施設実習の記録の基本について理解する。	事前学習	保育実習時の記録について振り替り課題を整理する。
		事後学習	施設実習における留意点を整理しておく。